

ムギ類赤かび病情報第3号

令和3年5月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

過去10年間で最も多い発生量です！
感染に好適な条件が続くため、注意してください

1 ムギ類赤かび病の発生状況

5月上旬に県内20ほ場で行った巡回調査において、ムギ類赤かび病（図）の発病穂率は、2.20%（平年0.04%、前年0.05%）で、過去10年間で最も高い状況です。



図 ムギ類赤かび病

2 今後の気象状況と赤かび病の発生予測

ムギ類赤かび病の第2次伝染は発病穂からの雨滴による流下や風による分生胞子の飛散で起こります。名古屋地方気象台5月13日発表の1か月予報によると、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。感染に適した気象条件が続くため、収穫まで日数があるほ場では特に注意が必要です。

3 防除対策

収穫まで日数があるほ場については、発病穂からの第2次伝染による被害を防止するため、下表を参考に防除しましょう。また、収穫前日数を考慮し、薬剤を選定しましょう。

表 ムギ類赤かび病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンM水和剤 トップジンMゾル	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1
	ベフラン液剤25	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布	M7
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	3
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
	トリフミン乳剤	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	3

無人航空機用

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンMゾル	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	無人航空機による散布	1
	チルト乳剤25	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01_2021.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。